

特定非営利活動法人しみん基金・こうべ・平成 23 年度事業計画書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

はじめに～平成 23 年度基本方針

東日本大震災の犠牲となられた方々に衷心より哀悼の意を捧げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

一昨年政権交代が実現してから「新しい公共」が唱えられました。寄附についても、その基盤づくりや税制の見直しの議論が始められました。特に、市民公益活動への寄附に対して“税額控除制度”の導入が検討されていて、これによって日本でももっと寄附されやすい環境になるのでは、と期待されています。当基金でもこの動向を受けて、今年の 1 月に設立 10 周年記念の一環として、顧問を務めて頂いている新野幸次郎氏に、日米の寄附と税制の考え方の違いについて説明頂いたうえで、これからの日本の市民社会に求められる寄附の社会的意義についてご講演を頂きました。

そして、3 月 11 日に発生した東日本大震災では、被災した人々を助けたい、何か役立つことがしたいという多くの人の想いが、国内外を問わず多額の義援金・支援金というカタチで表現されています。しかしながら、このような寄附という行為への関心が高まっている中で、そのことを一時的な現象で終わらせることなく、市民の社会参加を促し、社会的な課題解決や新しい価値の創造に貢献できるような恒常的な寄附文化を根付かせることに、課題があると思われまふ。

さて昨年度の事業計画では、2009 年度に設置した「検証ビジョン検討委員会」での検証結果やその後の理事会等での協議を踏まえて、以下の点に重点を置いて活動を実施致しました。

- (1) 支援者(賛助会員、応援団、サポーター)拡大や市民活動の基盤強化に資するための戦略的なネットワークを築いていくこと
- (2) 小規模でかつ気楽な形式で連続的なイベント募金等、多様な寄附機会を開拓・企画・提供すること
- (3) 次代の市民活動の担い手育成を重視していくこと

この 1 年間の活動を振り返って、助成事業の方針の中で「次代の市民活動の担い手育成を重視すること」が明記され、申請書の中でも各団体の次世代育成についての考え方を記載するように求め、審査・選考にあたってその内容を重視することを通じて、当基金の助成事業の特徴を明確にしてきました。また、青少年のフィランソロピー意識醸成のための支援活動にも取り組み始めました。それから、市民活動の基盤強化に資するためのものとしては、「NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座」の実施やアドバイザー派遣事業への参画等を通じて、少しずつその歩みを始めていると言えるでしょう。

一方で、支援者拡大のためのネットワーク構築や多様な寄附機会を開拓・企画・提供については、ほとんど手つかずで積み残していると言わざるを得ません。また、認定 NPO 法人格制度についての改正が見込まれている中で、当基金としても寄附を受け入れやすい環境を整えるために、その取得について検討や準備を始めなければならないでしょう。そして何よりも、当基金の活動の理念を広く伝えていくこと、そのための情報開示と説明責任を果たし広く共感を得ていくこと、そしてそれらを支える組織基盤の整備を図ることがますます求められてくるでしょう。

そこで、今年度の事業計画では、以下の 3 つの重点項目を置くことにいたします。

- (1) 寄附文化の醸成や市民活動の基盤強化に資するためのネットワークを築いていくこと。支援者の拡大やイベント募金など、多様な寄附機会を開拓・企画・提供すること。
- (2) 助成事業など様々な活動を通じて、次代の市民活動の担い手育成を重視していくこと。
- (3) 認定 NPO 法人格取得に向けての検討・準備を進めることなどを通じて、当基金の組織基盤や情報発信力の強化を図ること。

これらの重点項目を踏まえて、今年度の助成事業では従来からの一般枠を継続するとともに、東日本大震災の被災者を支援するためのチャリティコンサートを7月に実施し、その収益金による指定寄付に基づいて被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置することとします。合わせて、「検証ビジョン検討委員会」で課題として提起されたネットワーク力をつけていくことに取り組むことを通じて、恒常的な寄附の通路としてのコミュニティファンドの役割を果たし、「新しい市民社会」の確立に向けての道筋をつけていきたい、と考えています。

上記の平成23年度基本方針を受けて、下記のとおりの方針を計画することとします。

1 助成事業

ア) 本体助成事業 担当理事:瀬戸口

助成方針 次代の市民活動の担い手育成を重視する。

助成金額 総額300万円(+5万円)

- ・一般枠:一般枠には150万円を充てる。1事業について事業費総額の4分の3以内かつ上限は50万円。
- ・特定枠:特定枠には150万円を充てる。1事業について事業費総額の4分の3以内かつ上限は50万円。
対象は「東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動」とし、神戸新聞チャリティコンサートによる指定寄付に基づく設定の予定。
- ・しみん基金 KOBE 特別賞:従来の草地奨励賞から名称を変更。当基金と縁の深い方々のご遺志に基づき、当基金設立以来のミッションである草の根支援の見地から、意義のある活動を活発に展開され功績のあった団体に対し、応募団体の中から1団体を理事会で選考。賞金5万円。
- ・助成事業対象期間:1年間(2011年10月～2012年9月)

審査員

- ・審査員長は、山口氏から石東氏へ交代する。
- ・その他審査員は原則として、昨年と同じメンバーへ依頼する。

スケジュール

- 5～6月:審査員・審査員長の就任承諾、応募要項の作成
- 7～8月:広告知・応募申請、個別相談会(～受付締切1週間前)
- 8月:理事・審査員合同会議
- 9月:受付検査・書類審査・ヒアリング調査
- 10月:公開審査会、覚書締結・助成金交付、前年度助成成果報告書回収
- 12月:前年度助成事業成果発表会
- 随時:助成先団体への中間ヒアリング

イ) はぁ～とふるふぁんど支援事業の受託 担当理事:瀬戸口

- ・委託元:はぁ～とふるふぁんど委員会(兵庫県遊戯業協同組合、神戸新聞社グループ)
- ・支援総額:1,500万円予定(ボランティアあしすと部門&ふるさと地域振興サポート部門)
- ・受託事業収入金額:70万円予定
- ・スケジュール 4月:今年度支援団体の決定
6月:今年度贈呈式
7月:前年度最終報告書回収
11～12月:次年度分応募要項の作成、新年度受託契約締結
1～2月:広告知・応募申請・受付相談
3月:受付検査、1次審査

2 社会貢献活動促進事業

ア) 青少年フィランソロピー意識醸成支援

・次代の市民活動の担い手と様々な主体のリソースを生かした新しい連携の企画を検討。

3 寄付・募金活動

ア) 寄付受入

直接寄付 敬愛まちづくり財団:100万円予定。

イ) イベント募金

こうべi-ウォーク(協働) 神戸復興塾、神戸まちづくり研究所、まち・コミュニケーション、
甲南女子大学、1月上旬 担当理事:野崎
神戸新聞チャリティコンサート 日本財団助成、7月16日@松方ホール 担当理事:瀬戸口
小規模でかつ気楽な形式で連続的なイベント企画・実施
協働イベント募金(「ぼたんの会」の後継)の企画・検討

ウ) 職域募金

あじさい基金(協働) 神戸市職員有志(一口¥200/月40名)

エ) 協働企画寄付システム

古着リサイクル寄付(協働) オレンジスリフティ
・ポスター・チラシの作成と掲示・配布 担当理事:瀬戸口
書籍購入寄付(協働) 被災地NGO協働センター 担当理事:村井
ろうきんNPO寄付システム(協働) 近畿労働金庫
新しい協働企画寄付システムの開拓
ネット募金(GIVEONE等)の導入、クリック募金やソーシャルメディア活用の検討

オ) その他

募金箱募金のあり方検討
(例えば、これまでの助成先団体へ設置を依頼、定期的に回収しながら情報交換 ネーミングの検討)
支援者(賛助会員・サポーター・応援団)との関係構築・拡大策の検討

4 講演・講座事業

ア) 講演会事業

・テーマ:東日本大震災における災害支援のこれまでと今後の在り方を考える(予定)
・講演者:村井副理事長、神戸市消防局など(予定)
・開催時期・場所:検討中

イ) NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座(西日本地区版)

・協力:パナソニック(株)、(特活)パブリックリソースセンター(CPRD)
・受講者:5~6人ほど
・コンサルタント受入団体:未定(1団体目標)
・収入:3万円×受講人数(最低催行人数: ?人)、支出:受入団体謝礼:3万円+
・スケジュール:5月 詳細決定、受入団体の決定

- 6～7月 受講者公募、広報
- (8月 基礎編(～10月 CPRD))
- 10～12月 実践編(集合学習4回、団体訪問2回)
- ・ボランティア・スタッフ、実習受入先団体の検討

5 運営・管理

ア) 定款改訂・規程策定/文書整理

- ・定款:改定項目の抽出と改訂文案の検討(会員、審査、事務局、顧問、評議員、寄付…)
- ・規程:策定項目の抽出と規程文案の検討(就業、給与、寄付受入、助成、会員、経理…)
- ・寄付者・助成団体・関係者名簿の整理 データベース構築の検討

イ) 情報発信

- ・ニュースレター発行(年4回)
- ・ホームページの改訂(6月末)・ブログの更新(随時)
- ・年次報告書(アニュアル・レポート)発行の検討

ウ) スタッフ研修

- ・外部研修への参加(随時)

エ) ネットワーク活動

- ・関西財団の集い(：関西地区助成財団との連携)
- ・アドバイザー派遣事業(@神戸市・神戸まちづくり研究所:マネジメント支援)
- ・関西 NPO 支援センターネットワーク(KNN@大阪ボランティア協会:中間支援 NPO 地域連携)
- ・市民ファンド推進連絡会(@市民社会創造ファンド:市民ファンド全国連携)
- 各種講演・イベント共催等の活動(随時)

オ) 会議

- ・総会(5月)
- ・理事会(5月、9月、10月、2月)
- ・四役運営会議(4月、6月、7月、11月、1月、3月)

カ) その他

- ・認定 NPO 法人格取得に向けての検討と準備
- ・「新しい公共支援推進事業」関連の検討
- ・事務局スタッフ機能強化の検討
- 当基金の目的に関連する活動(随時)

平成 23 年度 しみん基金・KOBE 活動スケジュール(案)

月	助成事業	寄付・募金 / 講演会	その他の活動	会議等
4月	HF 最終審査・結果通知 助成団体中間ヒアリング (~9月・随時)		NL 発行	運営会議
5月	審査員就任承諾	チャリティコンサート広 報活動(~7月中旬)	講座:受入団体決定	会計監査 理事会 定時総会
6月	HF 贈呈式 応募要項作成	市民ファンド推進連絡 会設立フォーラム(6/6)	県報告 講座:広報・受講者公募 HP 改訂	運営会議
7月	応募申請受付(~8月) 受付相談 HF 前年度報告書回収	チャリティコンサート (7/16)		運営会議
8月	理事・審査員合同会議		NL 発行 講座:基礎編(~10月)	
9月	受付検査 書類選考(1次審査) ヒアリング調査			理事会
10月	前年度分報告書回収 公開審査会		講座:実践編(~12月) 集合学習:4回 団体訪問:2回	理事会
11月	覚書締結・助成金交付 しみん基金 KOBE 特別賞 授与式 HF 次年度応募要項の検討		NL 発行	運営会議
12月	HF 委託契約 助成事業成果報告会			
1月	HF 応募申請受付(~2月) HF 受付相談(~2月)	こうべウォーク		運営会議
2月				理事会
3月	HF 受付検査 HF1次審査		NL 発行	運営会議

HF = はぁ~とふるふぁんと支援事業の略。助成事業欄で先頭に「HF」がついていないものは、本体助成事業によるものを意味する。

NL = ニュースレターの略、講座 = NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座の略。